

山梨県における

和服に関する実態調査（第2報）

一 仕立の方法について一

中 村 寿 子

1 はじめに

近年とみに洋式化されてきた現代生活の中で、種々の形で和洋併用の衣生活がなされているのが現状である。洋服化が著るしく進んできているとはいえ、われわれの遠い祖先の残してくれたこの「きもの」には、わが国独得の捨てがたい味があり、今も尚、日本人の間に愛用されている。

そこで和服を対象として、日本人の衣生活におけるその位置を明確にし、今後の和装及び和服裁縫のあり方を検討するために本調査を企画した。

前回第1報では、所持数と活用状態について既に報告した。それによると、所持数は種類別には長着を最高に、帯、羽織の順位であり、年齢別には40代50代が最高であった。又材料別では木綿、ウール、化繊類が増加しつつあるとは

いえ、絹物の利用が非常に多く、単仕立よりも袷仕立が高率であった。

これは、着用の時期及び用途などに関連があり、活動的な洋服は平常着として着用し、和服は礼装及び訪問着などのよそゆきに重点をおく傾向を示すものである。又各年代を通じては夏期よりも冬期の着用が圧倒的に多く、総じて、和服は、年配者に多く愛用されるということができる。

今回は、仕立の方法についてしらべ、第1報との関連において検討したので、ここに報告する。

2 調査方法

調査の対象及び時期は前回と同様で、今回と
り上げた内容は、表1の「4、仕立」の項である。

表1 調 査 用 紙 の 一 部

1	着 用 時 期	盛夏、初秋、秋、初冬、真冬、春先、春、初夏
2	着 用 用 途	家庭着、訪問、外出、会合、改まった場所、その他
3	着付（礼装を除く）	1人で着る、手伝ってもらふ、着せてもらふ
4	仕 立	手製、家人、知人、仕立屋、デパート、既製品
5	和服に対する興味、その理由	有 無
6	和服裁縫の必要性その理由	有 無
7	これからの和服和裁に対するお考えなどおきかせください。	

表一2 仕 立 の 方 法

項 目 地 域 年代 (人数)	手 製			家 人			知 人		
	市部 人	郡部 人	(計 人) %	市部 人	郡部 人	(計 人) %	市部 人	郡部 人	(計 人) %
20代 (37)	7	4	11 29.7	3	9	12 32.4	10	4	14 37.8
30代 (39)	5	10	15 38.5	5	5	10 25.6	5	10	15 38.5
40代 (85)	25	29	54 63.5	3	4	7 8.2	16	6	22 25.9
50代 (40)	11	17	28 70.0	1	1	2 5.0	4	4	8 20.0
60代 (16)	5	5	10 62.5	—	1	1 6.2	1	3	4 25.0
70代 (11)	2	6	8 72.7	1	2	3 27.3	—	—	—
計 228 (市部 105 郡部 123)	55 ※	71 %	126 55.3%	13 12.4%	22 17.9%	35 15.4%	36 34.3%	27 21.9%	63 27.6%

3 調査の結果及び考察

調査結果をまとめると表2の通りである。次に仕立の方法の傾向を図1に示した。

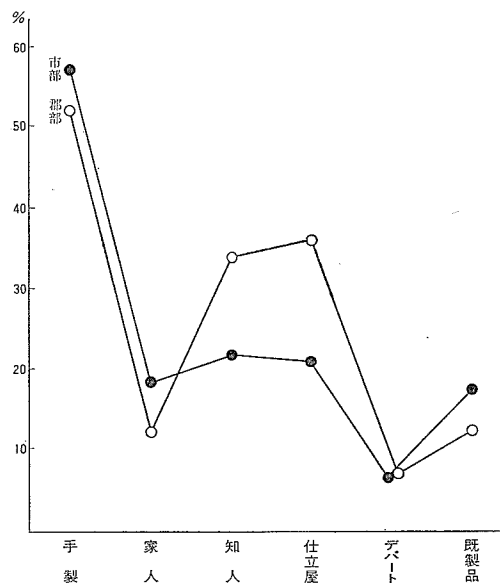
市部郡部共に、一応自分の手で仕立てる（手製）とするものが多く，他人に依頼する（家人及び仕立屋など）注文仕立および既製品の中では，デパート誂えとするものが最も少なかった。

更にこれを「手製」「注文仕立と既製品」「手製の他に注文仕立も既製品もある」の3種に区分したのが図2である。

これによると，全くの他人まかせという「注文仕立と既製品」が40％で，「手製」及び「時には注文仕立や既製品を利用するが主として手製」としているものが半数以上であった。

更に年齢別にみると（図3）高年層になる程に「手製」が上昇し，注文仕立が下降をたどっているのに対し，若年層ではその逆を示し，両者が交差をみせているのは，夫々に歩んできた時代による衣生活観と縫製技術の差異を表わし

図1 仕 立 の 方 法



ているものといえよう。

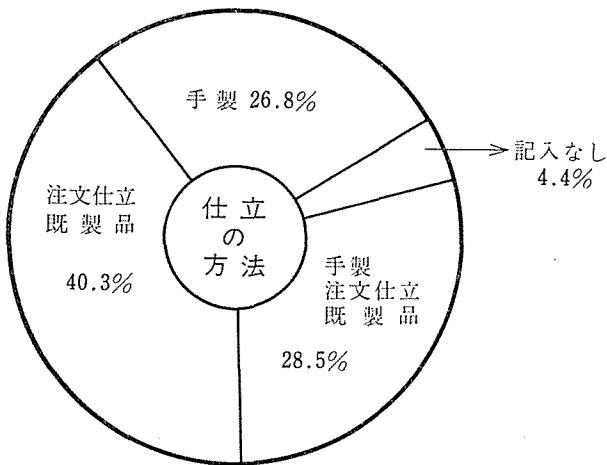
尚70代では，注文仕立が僅かに上昇している

表-2 (左よりつづく)

項目 地域 年代 (人数)	仕立屋			デパート			既製品			記入なし		
	市部 人	郡部 人	(計 人%)	市部 人	郡部 人	(計 人%)	市部 人	郡部 人	(計 人%)	市部 人	郡部 人	(計 人%)
20代 (37)	7	6	13 35.1	2	—	2 5.4	1	2	3 8.1	1	1	2 5.4
30代 (39)	9	3	12 30.8	1	1	2 5.1	3	4	7 18.0	—	1	1 2.5
40代 (85)	12	10	22 25.9	1	5	6 7.0	4	9	13 15.3	—	2	2 2.3
50代 (40)	7	4	11 27.5	3	2	5 12.5	3	5	8 20.0	1	1	2 5.0
60代 (16)	2	1	3 18.7	1	—	1 6.2	2	1	3 18.7	2	1	3 18.7
70代 (11)	1	2	3 27.3	—	—	—	1	—	1 9.1	—	—	—
計 (市部 郡部	228 105 123)	38 26 % 21.1	64 28.0	8 7.6	8 6.5	16 7.0	14 13.3	21 17.1	35 15.4	4 3.8	6 4.9	10 4.4

- 1人2項目以上の記入
- 各年代の%はその人数に対するもの(以下同じ)
- ※印計の人数は総人数に対するもの(以下同じ)
- ※印の%は市、郡部の人数に対するもの

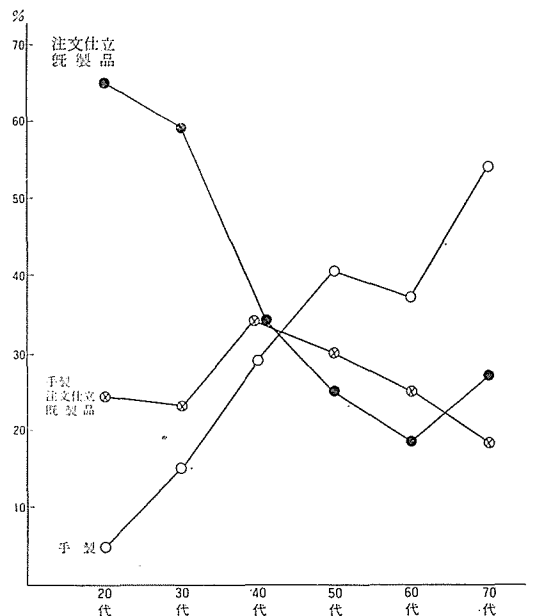
図2 仕立の方法



が、これは若い頃にはおそらく家族のものすべてを手がけていたことと思われるが、今では年令的に無理であることを示すものであろう。

職業別では(図4)「手製」は農業と主婦(無職)に多く、商業は比較的少なく、逆にサラリーマンは学生と共に「注文仕立と既製品」

図3 年代別仕立の方法



が大であった。

日常活動するには、洋服の方がはるかに便利

であろうし、多忙の上に着用の機会も少ないので、手近かの所で、手軽に仕立を依頼したり既製品で間に合わせることになるのであろう。ここにも目まぐるしい現代の世相の反映がうかがわれるのである。

4 ま と め

総じて自分で仕立てる（手製）としたものが27％、手製もするが時には他人に依頼したり、（注文仕立）既製品の利用もするとしたものがはぼ同率の28％、全くの注文仕立及び既製品利用としたものが40％示された。

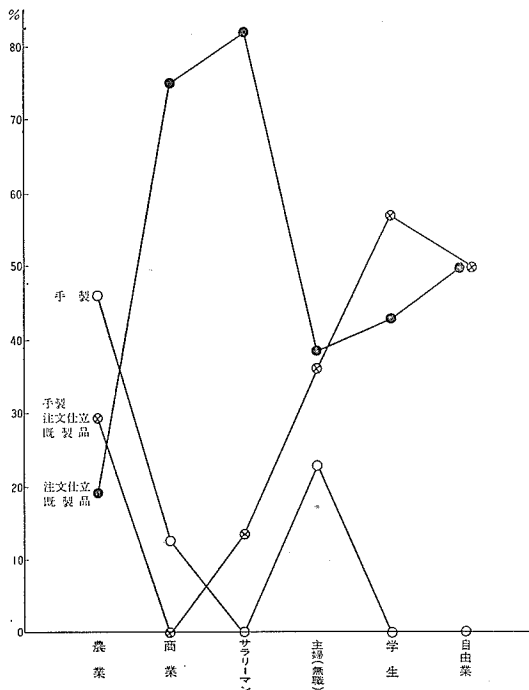
年令別では「手製」はやはり40代、50代の高年層に多く、20代、30代の若年層では、逆に「注文仕立及び既製品の利用」が、多くみられ全く対照的であった。

又職業別では「手製」は農業と主婦（無職）が高率で、商業、サラリーマン、学生は「注文

は、若年層の場合、洋服生活を主体とし、着用の頻度が少ないために、一般に和服に対する知識も少なく、縫製の機会のないままにその技術も未熟であることが推測される。又サラリーマンや商業等の場合は、日常は活動的な洋服の方を着用し、多忙でもあるということから、当然仕立を依頼したり、時には既製品も手近かで利用することになろうと考えられるのである。

第1報における和服の所持数と活用状態にも示したように、若年層も高年層も、所有率、着用率に差はあっても、四季を通じて夫々適宜に和服を着用しているのである。活動に不便だとしながらも尚、和服は捨てがたい味で広く愛用されていることがわかる。今後既製品は一層豊富に出廻るであろうし、その利用も増加していくことが予想される。然し食物と同様に「きもの」にも、既製のものだけで間に合せると割り切る前に、精神的なものを忘れてはならないと思うものである。

図4 職業別仕立の方法



仕立及び既製品利用が多く示された。

注文仕立にしたり、既製品に頼るということ

山梨県における

和服に関する実態調査 (第3報)

— 意識の動向について —

中 村 寿 子

1 はじめに

第1報では、和服の所持数と活用状態について、又第2報では、仕立の方法をどのように行なっているかを検討し報告した。

今回は更にひきつづき、和服に対する興味及び必要性の有無と、これからの和裁についての考えなど意識の動向についてしらべ、前報1.2との関連において検討したので報告する。

2 調査方法

調査の対象及び時期その他はすべて前報1.2

と同様である。今回は調査内容の残りの部分「5, 興味の有無」以下の項である。

3 調査の結果及び考察

3・1 和服に対する興味の有無

和服に対する興味の有無の調査結果を図1に示した。即ち有としたもの81%, 無としたもの14%で、大半のものが和服に対して何らかの形で興味を持っていることを示した。

年齢別にみると(図2)有とするものは高年齢層が特に高率で、前報の仕立の方法における「手製」とほぼ同傾向であった。

図1 興味の有無

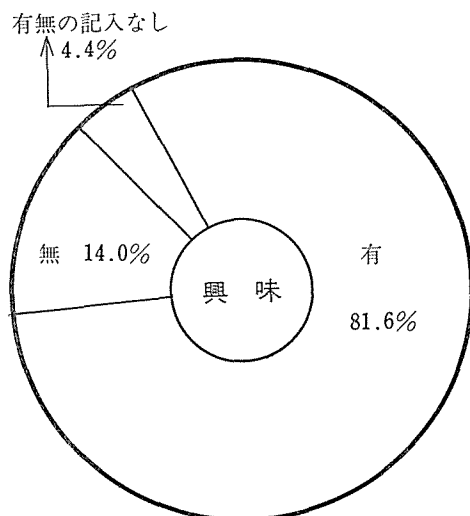
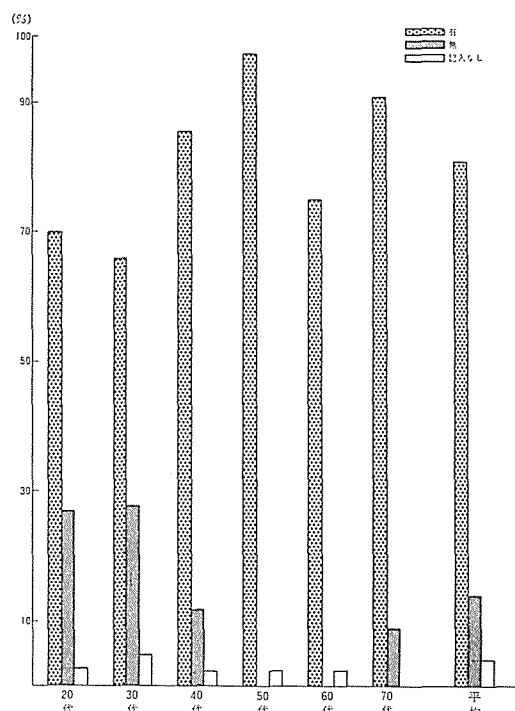


図2 年代別 興味の有無



その理由の主なるものをみると（表1）若年層では日本独得の形とか、優美などの感覚的な

面に多く好意を寄せている半面、非活動的着付の難などを指摘しており、高年層では、その他

表一1 年代別、興味及必要性の有無に対する主なる理由

項目 理由 有無 年代 (人数)	興 味		必 要 性	
	主 なる 理 由		主 なる 理 由	
	有	無	有	無
20 代 (37)	日本古来のもの 独得のよさ、美しい 洋服にない良さ	非活動的 着付が難	教養として、仕立代が 高い 基礎縫だけでも	縫えなくとも不自由せ ず 洋服を主としている
30 代 (39)	流行なし 女性らしさ、和服美 日本的	洋服の方が活動的で着 脱が簡単 非機能的、着付でぎず	日本独得、仕立代が高 い、裁縫の応用がきく 更生可能	多忙 既製品で間に合う
40 代 (85)	優美、心身がしまる おちつく、暖かい 体に合う、気分転換	洋服で間に合う 着用せず、多忙	教養、常識として、手 製のよさ、プームであ る、保温、経済的	既製品が豊富 仕立依頼で十分 多忙
50 代 (40)	日本女性らしさ、暖か い、おちつく 仕立直しのたのしさ		ある程度、身の廻りの しまつ位、保温 経済的	既製品の利用 多忙
60 代 (16)	体型カバー 更生、くり廻しができ る、ゆったりする		単衣をぬう程度 仕立直し 経済的	
70 代 (11)	年令的なおちつき 洋服は体に合わない ゆったり、暖かい		保温 経済的	

表一2 職業別興味及必要性の有無

項目 有無 職業(人数)	興 味						必 要 性					
	有		無		記入なし		有		無		記入なし	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
農 業 (78)	70	89.7	6	7.7	2	2.6	69	88.5	7	9.0	2	2.5
商 業 (8)	5	62.5	1	12.5	2	25.0	4	50.0	2	25.0	2	25.0
サラリーマン (22)	16	72.7	5	22.7	1	4.5	12	54.5	6	27.3	4	18.2
主婦 (83)	70	84.3	9	10.8	4	4.8	70	84.3	5	6.0	8	9.6
学 生 (7)	6	85.7	1	14.3	—	—	3	42.9	2	28.6	2	28.6
自由業 (2)	2	100	—	—	—	—	2	100	—	—	—	—
記入なし (28)	17	60.7	10	35.7	1	3.6	18	64.3	6	21.4	4	14.3
計 (228)	186	81.6	32	14.0	10	4.4	178	78.1	28	12.3	22	9.6

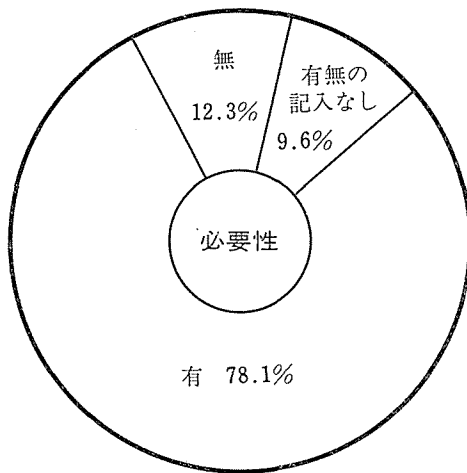
に仕立直しやくり廻しの更生可能という経済性おちつき及び保温などの着心地をとり上げているのが対照的であった。

職業別では（表2）農業と主婦（無職）学生が多く有としているが、全体として余り大差は認められなかった。

3・2 和裁の必要性の有無

図3では、和裁の必要性を有としたものが78%に対し、無としたものが12%あり、年令別にみても（図4）興味の有無の場合と同傾向を示した。

図3 必要性の有無



主なる理由としては（表1の興味の理由と同表）各年代を通じて、有とするものは仕立代の高いこと、日本的なものへの愛着、教養として

図4 年代別、必要性の有無

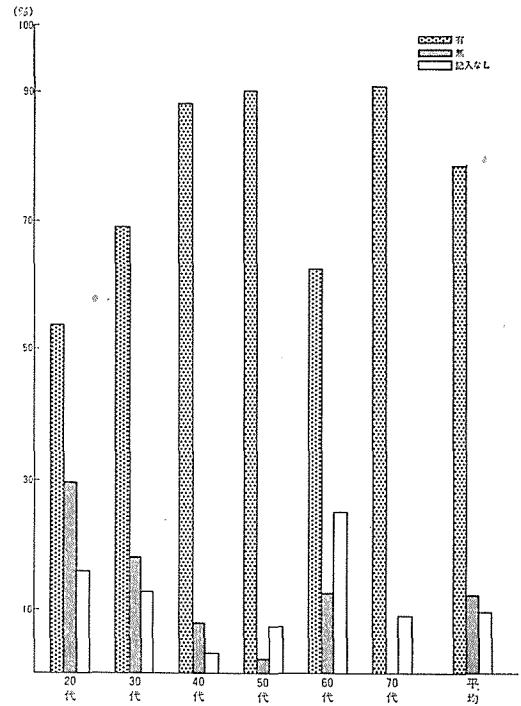
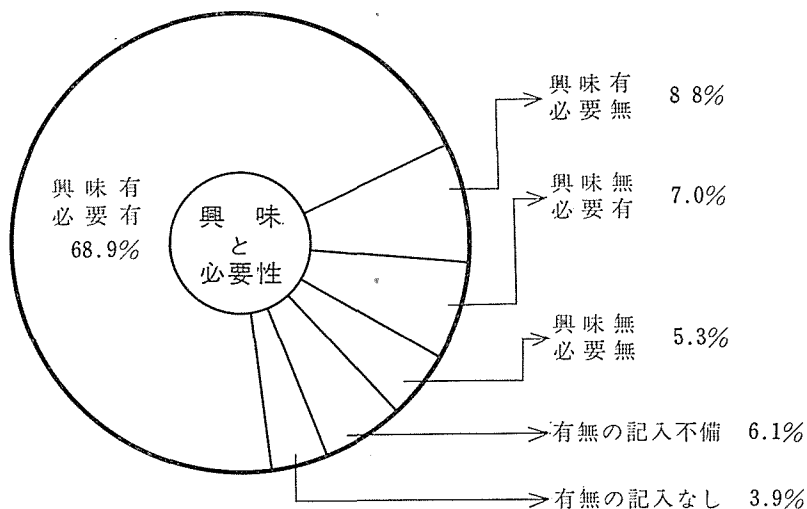


図5 興味と必要性との関連



などを上げ、無とするものは、非活動的で現代生活に不向き、縫えなくても衣生活の上に不自由しないこと、注文仕立や既製品の利用で間に合うこと、多忙などを上げている。尚高年層では、興味の場合と同様、くり廻し、仕立直しの経済性と保温などを上げて、和裁の必要性を強調するものが多かった。

3・3 興味と必要性和 仕立の方法との関連

これまでの結果から、前報の仕立の方法と、今回の興味及必要性との関連について検討した。

先ず図5は興味と必要性をどの様に持ち合せているかをしらべたものである。

即ち興味も必要性も有とするもの69%、興味は有るが和裁の必要は無しとするもの9%、興味は無いが、和裁は必要であるとするもの7%、興味も必要性も共に無く、無関心というのが5%という結果であった

次に和裁の必要性(有)と仕立の方法との関連はどうであろうか。

図6がその結果である。これによると、和裁の必要は有として「手製」は25%(前回仕立の方法では27%)「手製と注文仕立及び既製品」は24%(前回仕立の方法では28%)又「注文仕立及び既製品」では25%(前回仕立の方法では40%)とほぼ同率を示し、「必要性(有)」と「仕立の方法」とを関連づけると「仕立の方法」に表われた結果より、やや下廻るものであった。これらは記入のなかったものが26%もあったため、正確さに欠けるがこれからは簡単に注文仕立や既製品に切り替える時代としたものと思われる。

年令別に示したのが図7である。前回の仕立方法と今回の必要性(有)を関連づけたものだが、40代はほぼ同率にあるが、20代、30代ではその差に開きがあり、50代以上にもその傾向がみられた。前者の場合、特に注文仕立と必要性(有)を含めたものとに大差あり、後者の場合は、この点ほぼ平行線をたどり、必要を認めた「手製」も平行を保ちつつ高率を示した。

興味があれば和服に関心を持つし、仕立も自

図6 必要性(有)と仕立の方法

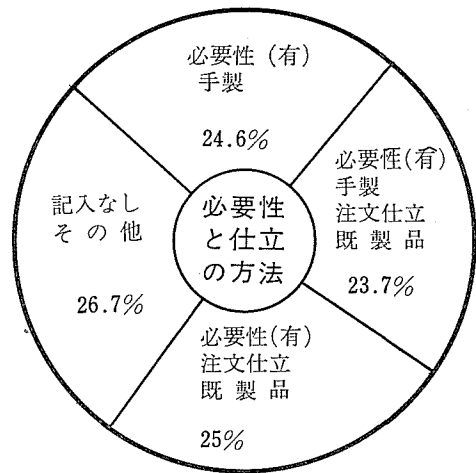
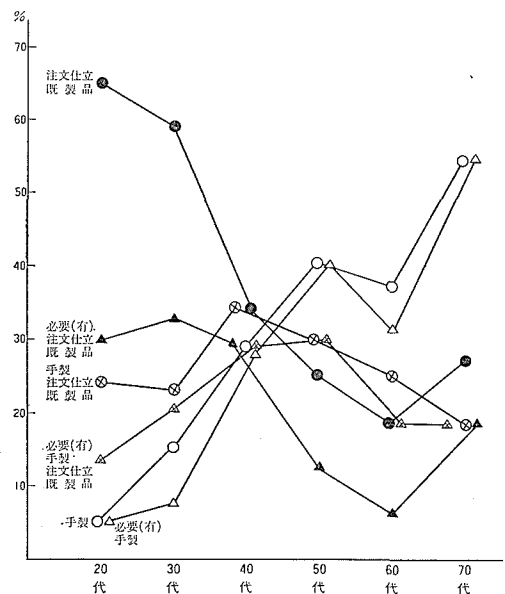


図7 年代別必要性有と仕立の方法との関連



分で体に合せて作り上げ、それに喜びと楽しみを感じる。同時にその必要性もおのずから認めるものと考えられるのである。又一面には、興味も非常に深く、必要性も十分認めながら、多忙と着用機会の少ないことなどから、注文仕立や既製品に頼るということも推測されるのである。

この比率は、記入不備が多数(26%)のために、正確さには欠けるものがあるが、一つの傾

向としてとらえることができると思われる。

3・5 今後の和服和裁に対する考え

この項に対しての記入は、僅か38%に止まったが、その内容をみると、先の興味及び必要性に上げた理由と重複するものが多くみられた。

若年層では、洋服生活でこと足りるので、着ることには不自由しないが、わが国の伝統的な「きもの」は非常に美しく、眺めても着用しても楽しいとのべている。然し着付がむずかしいので、若い人にも親しまれるように、改良の余地があるとし、尚基礎知識はぜひ共習得しておくべきであるとしている。高年層では「きもの」への愛着と共に、その経済性、着心地、合理性など、長所短所を上げて、礼装、訪問着には和服を最上として、将来も残すべきであり、更に今後は、夫々の生活環境に合せた、合理的な衣服構成と衣服設計を工夫すべきであるとのべている。

4 む す び

今回の和服、和裁に対する意識の動向についてのまとめとしては、興味も必要性も共に有りとしたものは半数以上で、年令別には40代、50代に、職業別では農業と主婦に多くみられた。又若年層は、優美さや気分転換の楽しさなど、外観的な面に興味を持つことが多く、高年層では、その他に、くり廻しとか仕立直しなどの経済性と、おちつき及び保温などの着心地をとり上げていた。

商業、サラリーマンには比較的興味うすく、必要性も大して認めておらず、逆に和服の欠点を指して、現代衣生活には、既製品の利用と活動的な洋服で間に合うと割り切っている向きがみられた。

又興味も有るし、必要性も十分に認めるが、多忙すぎることで、着用機会が少ないことなどの理由から、注文仕立や既製品の利用をしているものもみられた。化学繊維の改良発達と共に、仕立や管理の簡単な単仕立及び既製品は更に増加されていくことは予想される。時代の流れと共に生活環境により、着用条件も、夫々の持つ意識の動向も、異なってくることは当然の成行

きであろう。目まぐるしく複雑な現代世相をよく表わしているものと思われた。

これまでの結果からみて、所持数もある。興味も有る、必要も認めると示されて、日常生活にはまだ和服に対する愛着が根強く残っていることを察しても、これで和服の前途を楽観視することはむずかしく、問題点は数多く残されているのである。

当面、和服のもつ長所を伸ばしながら、被服材料、縫製、着装、着心地、管理、経済、被服衛生などの見地から、各人の生活環境に合せた「きもの」を工夫し、同時に衣服設計を研究することは必要であろう。

郡内織物の産地としての、本県での実態調査には、特色らしいものは余り認められず、全国平均とほぼ同傾向の結果に止まったが、衣についての問題点の把握と、その解決へのよき資料となったことを確信するものである。

尚和服愛用者のために、昔ながらの本県特産甲斐絹を再び世に出して、これを使用したいと願うものである。

最後に、本調査に関して、格別な御指導を賜りました文化女子大渡辺ミチ先生、田村照子先生、群馬大金子富美先生、本学の諸先生並びに学生の皆様に厚く御礼申し上げます。